

高句麗

百濟

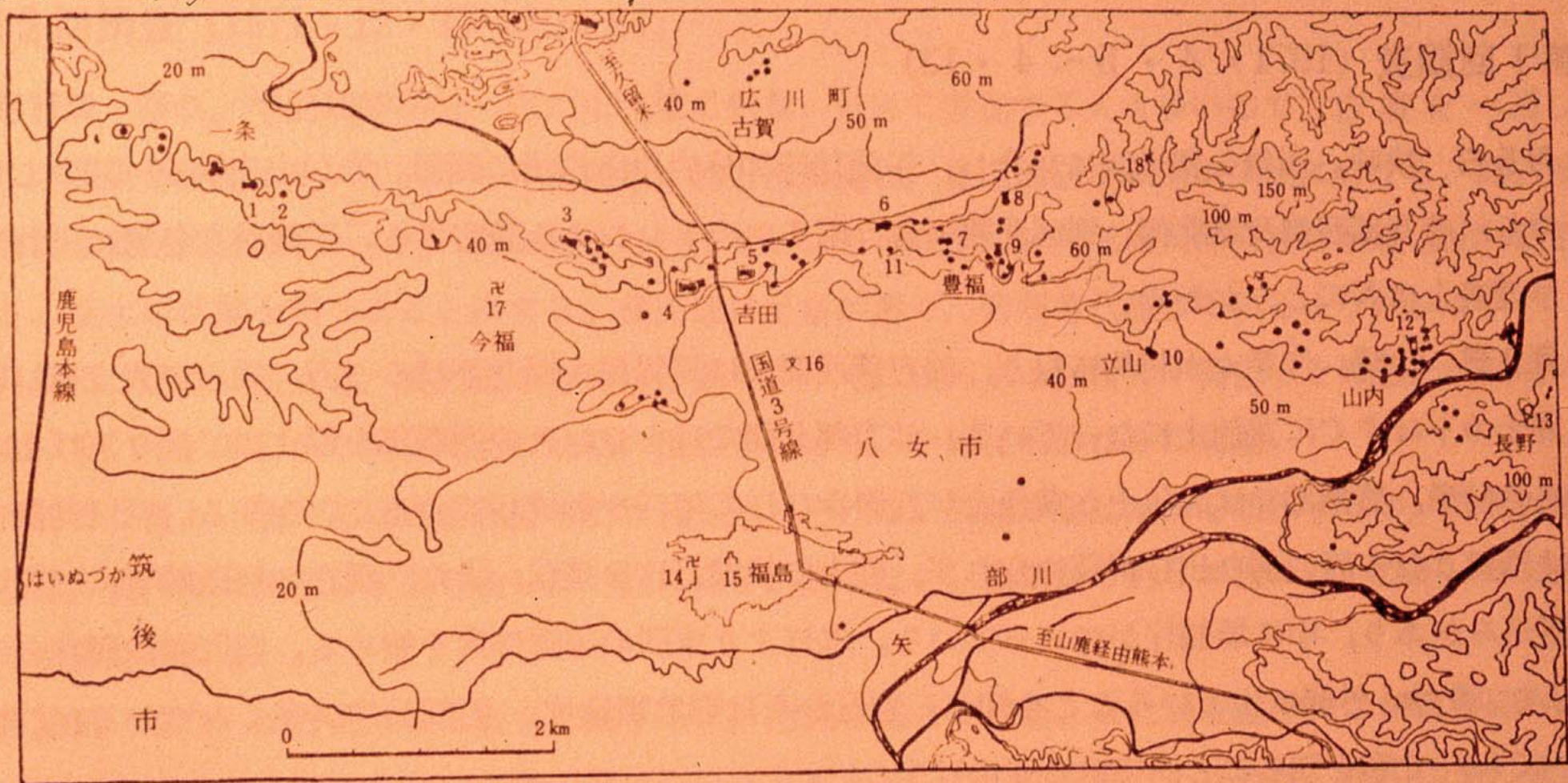
新羅

倭
(日本)

大和

加羅
(任那)

磐井



1 石人山古墳 (装) 2 弘化谷古墳 (装) 3 神奈無田古墳 4 岩戸山古墳 5 乗場古墳 (装) 6 善藏塚古墳 7 鶴見塚古墳 8 釘崎3号古墳 9 釘崎2号古墳 10 立山丸山古墳 11 円山古墳 (装) 12 童男山古墳 13 長野採石場 14 正福寺 15 福島公園 16 長峰小学校 17 今福正善寺 18 牛焼谷窯跡

第1図 人形原台地主要遺跡分布図









石人山古墳の出土品を展示しています。この展示は、古墳時代の文化を伝えるために、出土品の中から、古墳の構造や埋葬の様子、そして古墳の歴史について、詳しく説明しています。出土品の中には、土器、埴輪、石棺、石槨などがあります。また、古墳の歴史や文化について、詳しく説明しています。



和紙の灯籠



古墳時代の
 貨幣



古墳時代の
 土器の破片

さて、石人山古墳の出土品を見て下さい。遺跡からは、古墳時代の文化が、数多く出土しています。この展示では、古墳の構造や埋葬の様子、そして古墳の歴史について、詳しく説明しています。出土品の中には、土器、埴輪、石棺、石槨などがあります。また、古墳の歴史や文化について、詳しく説明しています。



古紙

遺跡文



ようしつどき
陶質土器

陶質土器
北九州府上野原町

高台
北九州府上野原町





























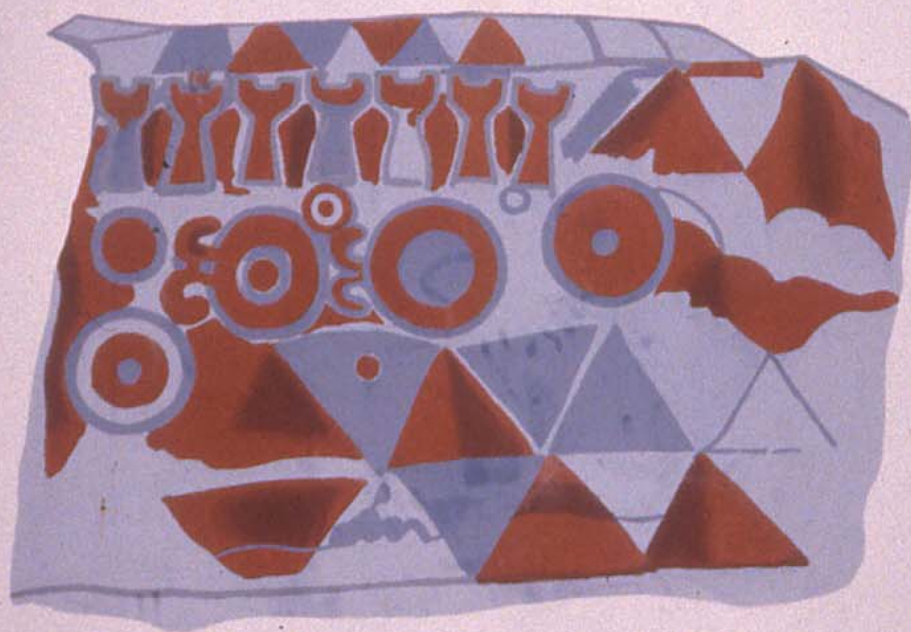
福岡県指定史跡 弘化谷古墳

八女郡広川町大字広川字弘化谷
昭和四十八年十月十五日指定

この古墳は六世紀に築造された墳丘径三十五メートル、高さ約六メートルの二段築成円墳であり、一周濠を有している。墳丘は約三分の一を消失しているが、築成断面は古墳築造方法を知る良い見本であらう。また玄室石屋形には田文、靴、三角文の裝飾があるが、その図柄は左の如くである。

昭和四十九年 月 日

広川町教育委員会









どう なん ざん
童男山古墳群

八女市大字 山内

童男山古墳群は、県指定史跡「童男山古墳（1号墳）」を中心として周囲に所在する古墳

古墳群は大きく分けてループがあり1号墳の東13基、1号墳から南にのびる屋根上に9基、西側の浅い谷だ屋根に5基と現在まで27基を確認している。古墳はいずれも円墳で、内部主体は複室構造の横穴式石室が多い。

童男山古墳群の特色として内部施設に石屋形・石欄・棺などが多くことが注目さ

指定史跡を中心と群である。

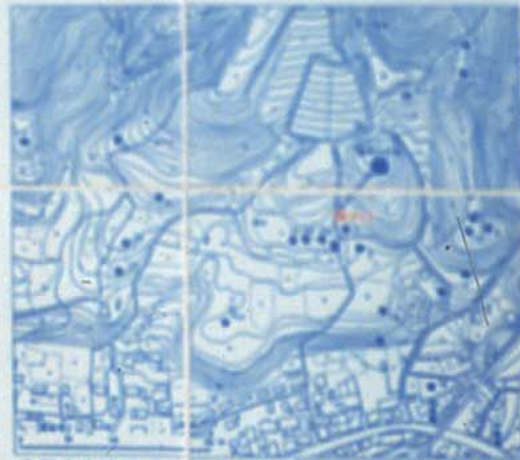
三つのグループに側屋根をはさんだ屋根に5基と現在まで27基を確認している。古墳はいずれも円墳の横穴式

して内部床・石棺

これら古墳群は、いずれも六世紀後半頃を中心として築造されたと考えられている。

平成元年 十月

八女市教育委員会



童男山古墳群 (古墳分布図) ●古墳 (数字は古墳番号) ○消滅した古墳





















鴨稻荷山古墳

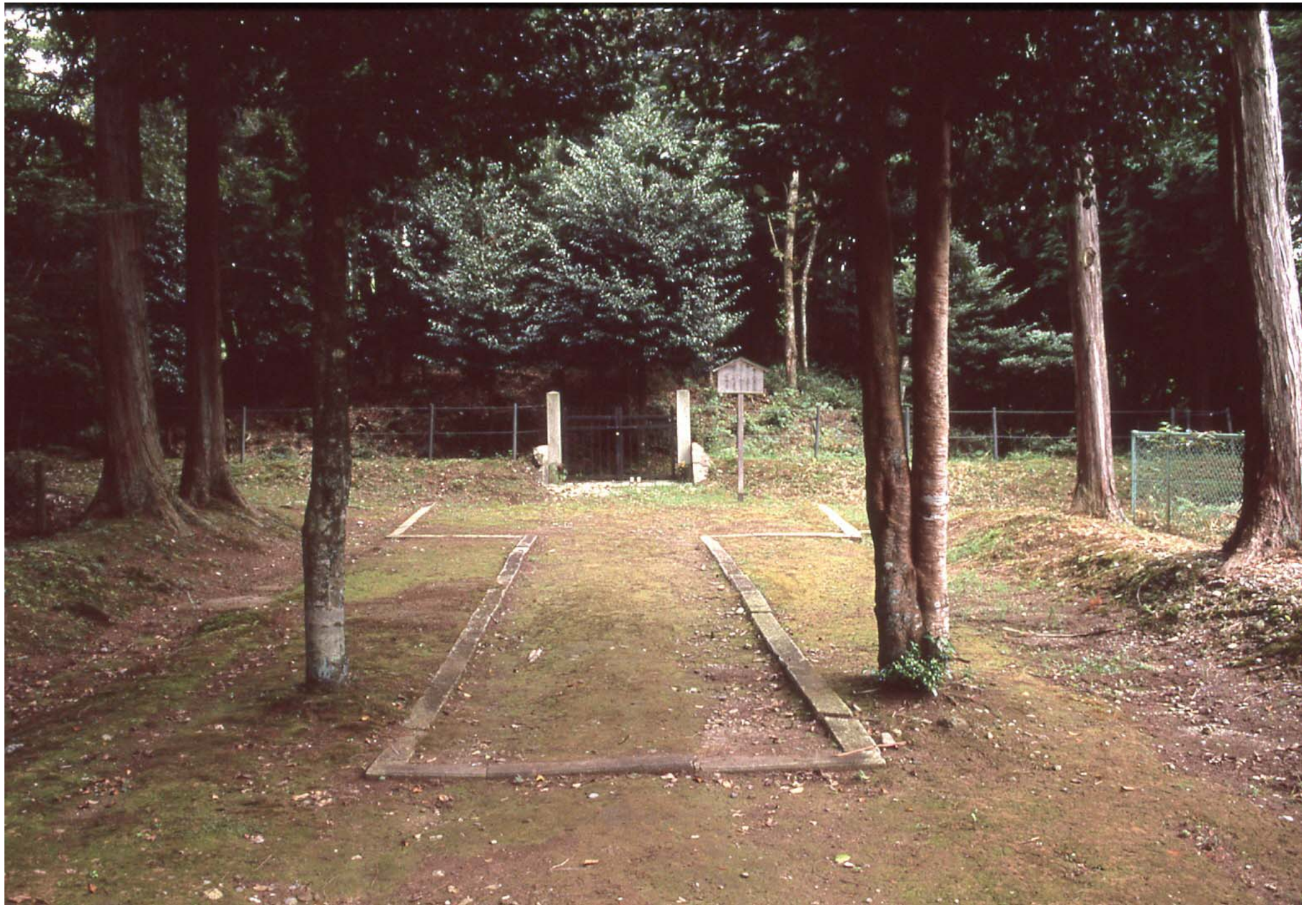


安曇陵墓参考地

当初は帆立貝式古墳で、周辺にある高塚古墳の陪塚と共に宮内庁の所管になっております。「一塚」又は「ウシ塚」と呼ばれ、地元では高神天皇の皇女孫屋上女王の陪塚に伝承しています。

伝承では、産屋女王は近江国（北越前の国を判るとして治めておられました。越前国坂中井の里より蛇として送られた報復。または垂仁天皇の子孫にあたられたこの山崎の地で三つ子を産まれました。三王子の最若者天皇は後に中間の名を第二十代敏体天皇とされました。産屋女王は王子が五歳のときおどろきに安らしたのでこの地に葬られたと伝えられています。当塚は大小四輪敷墓の塚が散在する玉塚田中古墳群の最大のものです。

安曇川町



地方豪族が擁立した天皇

継体は越前・近江・河内・美濃・尾張などの地方豪族に擁立され、近江あるいは越前から大和入りし、新王朝を開いた天皇であるとする見方が有力である。その際、尾張氏の果たした役割が特に大きかったとされるのは、8人の妃の中で尾張連草香の娘「目子媛」（めのこひめ）が「元（はじめ）の妃」とされ、生まれた子が安閑（あんかん）・宣化（せんか）と、いずれも天皇になっていることによる。

一地方豪族であった尾張氏が、これを契機として宮廷内に力を得、日本書紀の氏族系譜の中に、尾張氏の影を色濃く残すことになったとする説がある。

継体天皇関係図

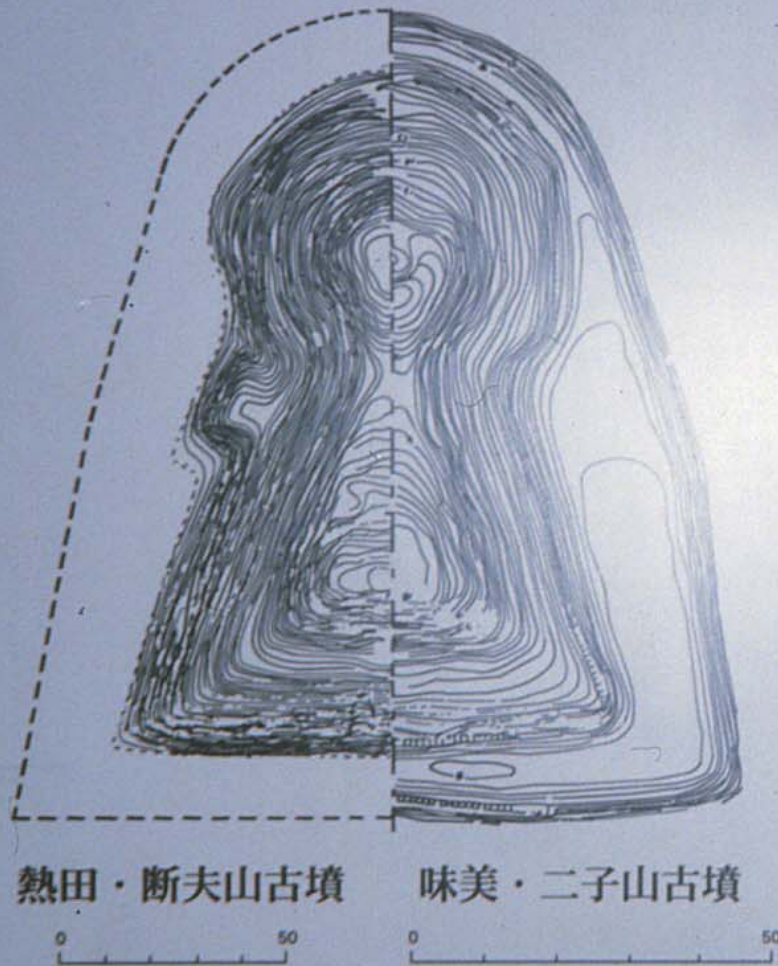


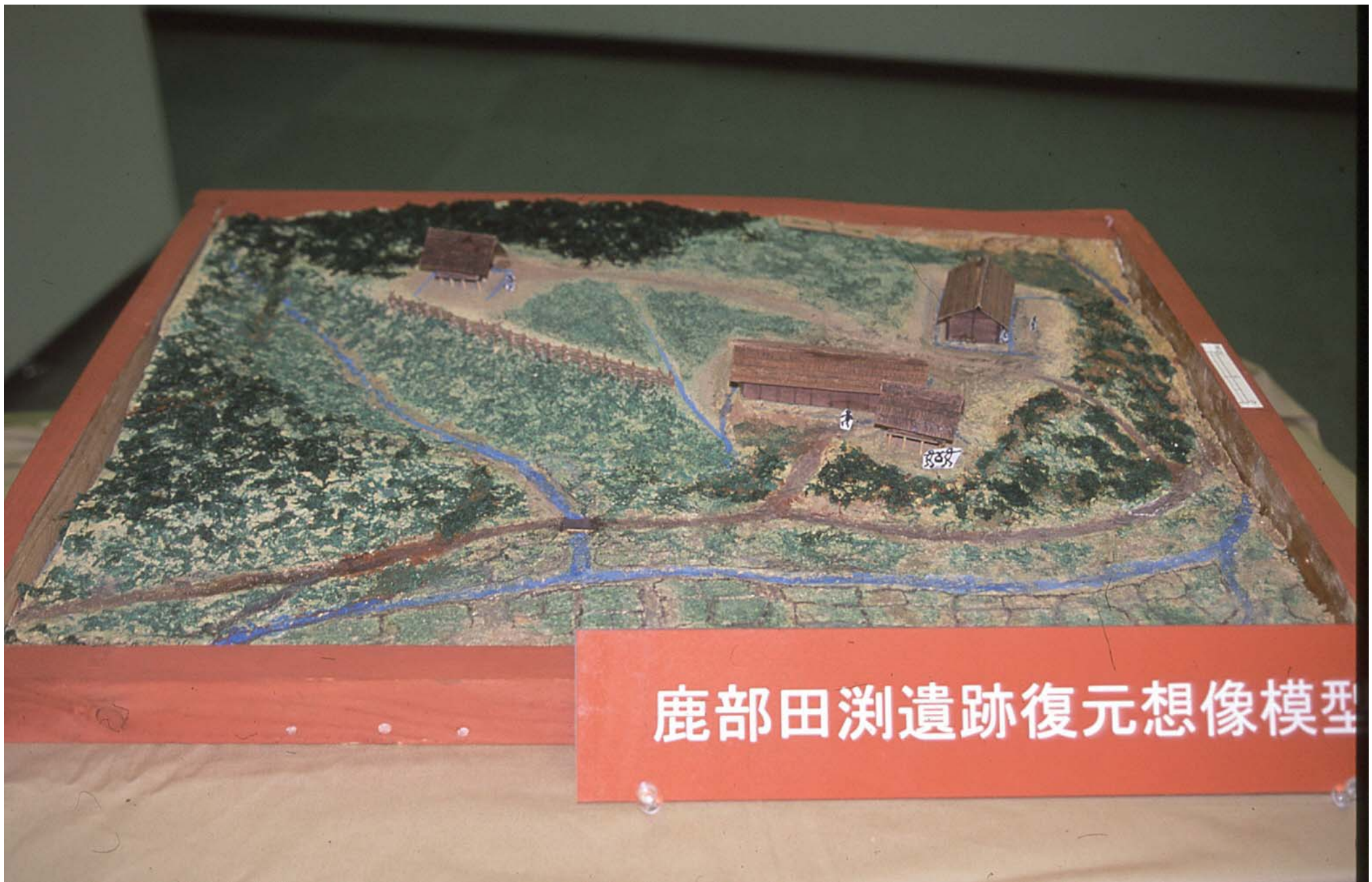
古墳の相似性

断夫山古墳と二子山古墳を縮尺を変えて同一規模に合わせてみると、その相似性が理解される。

同時期の今城塚古墳が190mであるから、その8割の大きさの152mが断夫山古墳、5割の大きさの95mが二子山古墳の近似値となる。ちなみに同タイプのはじまりとされる土師ニサンザイ古墳（堺市百舌・陵墓参考地）の290mは、今城塚古墳の約1.5倍にあたり、古市古墳群中の軽里大塚古墳（白鳥陵）の190mとは同一規模である。

こうした数字からも、同時期における共通した設計企画のあったことが推測される。





鹿部田湍遺跡復元想像模型

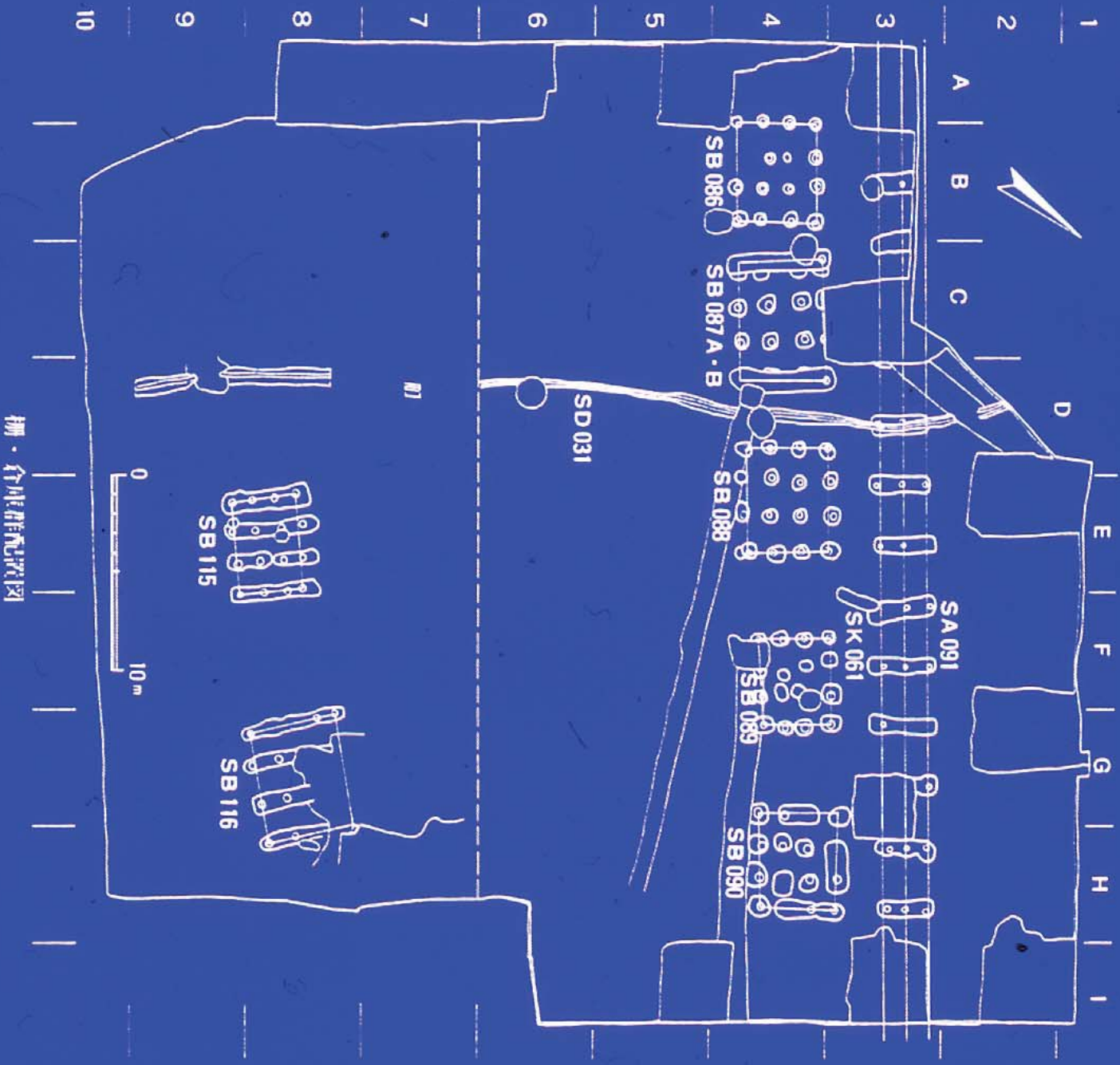












棚・台座群配置図

終